

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——



特集

「名もなき家事」
『ひらく』ではこう考える

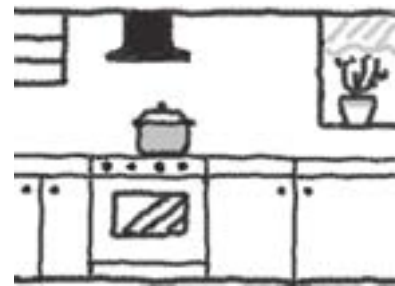
2023.10

53

男女共同参画社会をめざす

「名もなき家事」

『ひらく』では、こう考える



「名もなき家事」ってなに？

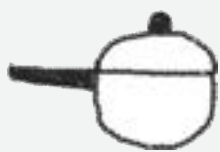
生活は目に見えるものと、それを支えている沢山の面倒な作業でなりたっている。その大まかな一掴み^{つか}を私たちは家事と呼んでいる。なんと呼べばいいのか呼ぶほどのこともない小さな家事。でも小さいけれど集まると結構な存在感を持って生活に影響する。特にそれまで小さな家事の担い手だった女性たちの働き方や意識の変化によって更に影響は大きくなっている。

そこで『ひらく』では、実行委員がこの小さな家事（名もなき家事）にどう対処しているのか考えてみたいと思った。

家事は各家庭により、考え方もやり方も異なるものだから、それぞれの家庭で話し合っ、やれば良いと思います。

我が家では、子どもが小さい時から役割を与えて、皆で分担してやっていました。

できる時に、都合がつく人がやるには、家族のコミュニケーションが大事です。



むかし、子どもが「お手伝い、したい〜!」と言ってくれた時に、やつてもらわなかった。その時は、時間の余裕が無かったのだ。

仕事が終わりに、保育園にお迎えに行き、慌てて、食事の支度をしなくてはならなかった。

そのツケか？
今も全部、私が一人です。

途方もない名もなき家事だけど、それぞれを見ると、どれも生活を豊かにするために必要な小さなピースです。でもなぜかリストにするとうんざりしてしまう。この小さなピースを誰がはめるのか、はめる人の時間をどれくらい奪ってしまうのか、それを考えるとピースを持たされている、主婦はためいきをつきます。

でも、どうして決まった人がすべてのピースをはめていなくてはいけないのでしょうか。名もなき家事はそう難しい作業ではありません。言いかえれば、誰だってできることです。だからみんなでやりましょう。生活を共にする人間同士お互いにできることをすれば、それでいい。それに気づいたらこれまでの生活を見直すチャンス。家族は共同生活者です。



「名もなき家事」で検索すると、妻の苦勞をしのぶ記事ばかり出てくる。家事が女性に偏っている証左^{しやうさ}だろう。名もなき家事代表の麦茶作りやシャンプー詰め替えの分担の偏りに悩んでいる方、いっそすべてを属人器化してみたらどうだろう。麦茶やシャンプーの容器は家族分用意し、それを各自で管理してもらおう。多少コストや手間がかかるが、家事に関しては分けられるところは分けたほうが上手くいくことが結構あると思う。

娘2人との3人家族。基本的にお互いのプライバシーには干渉しないのがルールだが、3人に必要な家事については共同生活者としての責任があるので「ほっといてくれー」という訳にはいかない。家事といえばとりあえずは炊事、洗濯、掃除の3つだ。まず炊事。これは私が受け持っている。私が作ったほうが美味しいし、あと何回食べられるか分からないのに、娘の作ったまぜいものを食べる気はしない。だから私の分担というより私が作ったものをほかの2人が相伴するという形になる。次は洗濯。洗濯機というものがないので、洗濯は結構な労働だが風呂桶に汚れ物を1時間漬けて、脱水は専用の脱水機で。全部で2時間ほどの工程になる。週2回、担当の娘2人は休みの日の午前中にやっている。最後に掃除。これが一番曖昧で無類の掃除好きでもないなければいけない「そのうちやろう」で時が経つのだが、誰がやると決めないほうが上手く回る気がする。そのときの気分で誰かがやっている。わがままな猫の世話は担当を決めなくても手が6本待機しているので、今のところ心配ない。



家事という単語を聞いたらすぐに具体的な内容が思いつく料理や洗濯、ごみ出しといった家事と、名もなき家事という単語を聞いただけでは具体的な内容が思いつきづらい家事の違いは、家庭内で明確な役割分担がされているかだと考える。

家事は、料理担当や洗濯担当などと家庭内で役割分担が決まっていることが多いが、日用品の詰め替え作業などといった名もなき家事にはそういった役割分担がされていることが少なく、先に気づいた人や得意な人が自然とやるようになっていく家庭が多いと考えられる。そのため、名もなき家事をしてくれる人に対して当たり前だとは思わずに感謝の気持ちを忘れないことが大事だと考える。

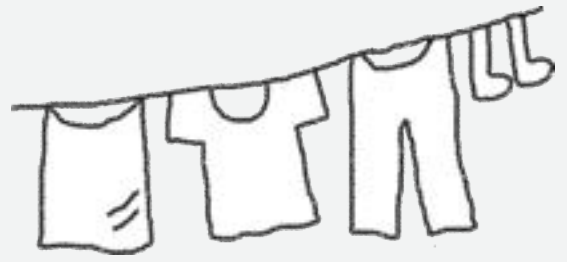
check!!

名もなき家事の中身は……

- 朝カーテンを開け、夜カーテンを閉める
- 朝刊、夕刊を取りに行く
- 郵便物をチェックする
- ポストに入っていた不要なチラシの処分
- 新聞・雑誌などをまとめて捨てる
- ごみを分類する
- 溜まったごみを捨てる
- 玄関の靴をそろえる
- 靴を磨く
- 調味料を補充・交換する
- 食事の献立を考える
- 食事の前に食卓を拭く
- 飲みっぱなしのグラスを片付ける
- 食べ残しの食品を冷蔵庫にしまう
- 古くなった照明の交換
- 家電製品の選定・購入・設置
- 手洗い場のタオルを取り換える
- トイレトーパーがなくなったときに、買いに行く
- 使い切ったティッシュの交換
- 使った道具を、元の位置にきちんと片付ける
- 脱ぎっぱなしの服をクローゼットやタンスにしまう
- アイロン掛けをする
- クリーニングに出す、取りに行く
- ベッドや布団を整える
- 子どもの食事を手伝う
- 子どもの送迎
- 子どもの学校準備、勉強を見る
- ペット、植物の世話
- 町内やマンションの会合に出席する

など

(参考資料)「名もなき家事」ランキング (大和ハウス工業㈱ホームページ)



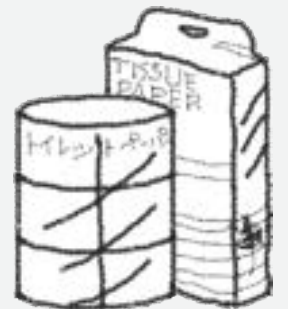
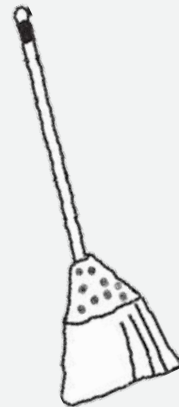
「新聞取ってくるついでにごみも出そうか？どれ？どこに置くの？」と声掛けしてくれる夫。一見、気が利いていて親切そうに聞こえるが気になる点が浮かび、もやっとする……

〈きょうは何ごみの日〉〈生ごみの時はカラス対策必須〉〈ごみ置き場〉を知らない。〈ついで〉ということは、ごみを分別しまとめてごみ出しをするという一連の作業は基本的には自分ではないと思っ

家事は誰か一人だけの仕事ではないと、ひとりひとりが考えていくことが大切だと思います。家族の誰かが洗濯をしていた時に、洗濯物を取り込む、畳む、しまうなど細かい家事をするだけでも負担は減ります。

自分が家事をできない時は、家事をしてくれる人に対してそれが当たり前だと思わず、感謝の気持ちを持つことが大事だと思えます。それだけでもお互いが気持ち良く生活していけるのではないのでしょうか。

全員大人の私たちは、得意な人や気づいた人がその家事をする。つくる人が食べたいものをつくれれば、献立に悩むこともないし、美味しい料理が並び、洗濯物はたたまないし、しまわないし、アイロンもかけない。裏返しでも気にしない。共有部分の掃除は適当な時期に気づいた人がする。誰も何も言わない。各自の部屋は各自の責任でなんとかする。私は私。母にも妻にも夫にも子どもにもいわゆる定年があると思っっている。



『ひらく』からのひとこと

『ひらく』の仲間たちの意見はそれぞれ環境によって違ってはいるようですが、それでも、ひとつ共通していることは、家事は決まった人だけがやるものではないという思いのような気がします。たとえ現実がそうではないとしても家族同士は平等で、お互いの意見を尊重できる関係であるべきものだと思います。

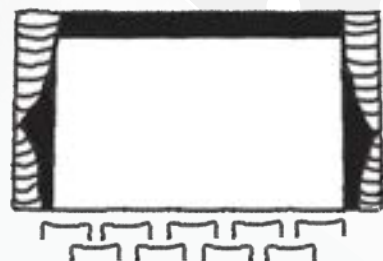
家族や周囲の人間の間にお互いを認め合う認識があれば、もう家事は誰かがやるものではなく、全員がかかわるもの、という共通した思いがうまれてくるはずです。

たかが家事、されど家事です。人間らしく豊かに暮らしていくために必要なのが家事です。言いかえれば家事を大切にしないと豊かな生活は望めないということになります。そして豊かな暮らしは家族一人一人が参加しなければ手にはできません。自分ができることは気がついたときに自分ができる、家族全員がそう思うことで、毎日の暮らしは楽しくなります。

家事は生きていくためには大事な作業です。家事をすることによって様々な考えを思い巡らし、生きていく上での知恵や人生哲学を手にかけることができます。そういう気づきやひらめきを共に暮らす人たちと共有するために家族でコミュニケーションをとりましょう。



本・映画・ドラマの中の 男女共同参画



『僕が家庭科教師になったわけ』
じまるこのころの「生きる力」

小平陽一 著

1985年、女性差別撤廃条約発効を機に女子生徒だけが学んでいた家庭科を女子も男子も一緒に学ぶようになりました。学校現場では家庭科教師が不足して、共働きの化学教師だった著者は、「自然ななりゆきで」女子大学で学び直し家庭科教師になりました。

著者は「共生」と「ジェンダー」の視点」が本書のテーマだと言います。授業で出会う生徒たちがいきいきしています。さらに著者の授業の内容が掲載されているのも非常に興味深いです。

太郎次郎社エディタス 1600円＋税



『母親になって後悔してる』
オルナ・ドーナト 著 鹿田昌美 訳



新潮社 2000円＋税

『オトナ女子をラクにする心とからだの本』

高尾美穂 著



新潮社 1400円＋税

『夫の扶養からぬけだしたい』

ゆむい 著

2歳の息子を持つ主人公のものは専業主婦。

毎日の家事と育児に追われ、家事がこなせていない時が度々ありました。

そんなものを夫のつとむは責め立てます。も

もこの立場を理解しようとせず、「努力不足」と手を貸してはくれません。収入がないことから何も言えないのも。

しかし自分の尊厳を守る為に夫の扶養から抜け、経済的にも社会的にも自立することを目指す、そんな物語です。

一方でつとむもまた、大黒柱としてのプレッシャーや仕事と家庭の板挟み状態がストレスとなり心に余裕がない状態でした。

お互いがお互いの立場を知ることの大切さが分かる、全ての世代の方に読んでもらいたい一冊です。

KADOKAWA 1050円＋税

『オッサンの壁』

佐藤千矢子 著



全国紙初の女性政治部長が「男社会」の現実を記した。

日本一の「オッサン村」である、永田町の非常識、政治メディアの実態があらわされている。

「オッサン」とは男性優位に設計された社会で、その居心地の良さに安住し、その陰で生きづらさや不自由、悔しさを感じている少数派の人たちの気持ちや環境に思いが至らない人たちのことだ。

わかって、あえて気づかないふり、見えて見ぬふりをしていられるのかもしれない。男性が下駄をはかせてもらえる今の社会を変えたくない、既得権を手放したくないからではないだろうか。

「オッサンの壁」とは具体的にどういうものか？ どうしたらそれを乗り越えられるのか？ 突き崩せるのか？

講談社 900円＋税

東京レインボープライド 2023 に 小平市が初参加しました

令和5年4月22日、23日の2日間渋谷区代々木公園で東京レインボープライド2023（以下TRP）が開催され、小平市も「東京10市ネット」の協力市として初参加しました。

TRPとは、LGBTQをはじめとするセクシュアル・マイノリティの存在を社会に広め、「性」と「生」の多様性を祝福するイベントで、特定非営利活動法人 東京レインボープライドが開催しています。

当日は各市の市長や副市長からのメッセージ展示やミニトークコーナー、6色のレインボーバスソルトづくりなどを行いました。TRP全体として2日間でのべ23万人、東京10市ネットのブースには約1,600人が来場しました。



8月13日ににじず多摩を小平市で開催しました

■にじず多摩って何？

一般社団法人「にじず」が運営する、10代～23歳までのLGBTやそうかもしれないと感じている人が集まるオープン・デーを多摩地域で開催する事業です。この活動は東京都多摩地域複数市による連携事業として実施しています。

■にじず多摩 オープン・デー日程

R5 (2023)	4月9日	日野市
	5月20日	屋外イベント（多摩地域の公園）
	6月11日	国分寺市
	7月9日	町田市
	8月13日	小平市
	9月10日	府中市
	10月8日	屋外イベント（多摩地域の公園）
	11月12日	東村山市
	12月10日	多摩市
R6 (2024)	1月14日	清瀬市
	2月11日	国立市
	3月10日	日野市

オープン・デーは他の地域でも開催しています。
詳しくはにじずのHPをご覧ください▶



マザーズハローワーク立川 出張無料相談会

子育てや介護などで職を離れたけれども、そろそろ仕事に就いて自分らしい働き方をしてみたい、これまでの働き方を見直したいなど、ご相談にのりながら、お仕事探しをお手伝いいたします。相談はマザーズハローワーク立川の専門相談員が対応し、秘密は固く守ります。相談は予約が必要です。保育もあります。

■定員 各回1名

■実施日時 9:30～ 10:15～ 11:00～（各回40分）

R5(2023) 7月20日(木)小平市男女共同参画センター“ひらく”

9月21日(木)中央公民館 学習室2

11月16日(木)天神地域センター 第1、2集会室

R6(2024) 1月18日(木)上水本町地域センター 第1、2集会室

3月21日(木)小川町1丁目地域センター 集会室3

■予約方法 8ページ左下の発行元までご連絡ください。

小平市女性 LINE 相談 2か月限定で実施しました

「誰かに聞いてほしいけれど、電話や面談での相談はちょっと…」
そう感じている方が一人で悩まずLINEで気軽に相談できるよう、小平市で初めての女性LINE相談を期間限定で実施しました。

小平市女性相談室よりも若い世代からの相談をお寄せいただきました。

■期間・時間

7月から8月の2か月、毎週水・金曜日（祝日を除く）
午後4時から8時

人権（LGBT）講座を開催しました

9月23日に小平市中央図書館で人権（LGBT）講座「もっと知りたい、多様な性のかたち～子どもや若者が安心できる地域とは～」を開催しました。講師の遠藤まめたさんはオンラインで登壇し、会場とオンラインを併せて約40名の方々に聴講いただきました。

アンケートには、「性的違和感は低年齢の頃から覚えると聞いていたため、子どものことを中心に話をしていただき、参考になった。」などの感想をいただきました。



アンペイドワークとは…

お金や賃金などの対価が支払われない労働のことで、無償労働や無給労働とも言われます。家庭内での家事や看護・介護、地域の清掃・見回り・見守りなどのボランティア活動や社会的活動、住民・市民運動、企業や団体のインターンシップ、などが挙げられます。

それに対して有償労働の典型は雇用労働であり、物を生産したり、サービスを提供したりして対価としてお金（賃金）が支払われる労働のことを言います。

アンペイドワークは報酬がないために、経済的に不平等な状況が生じること、その価値が見過ごされること、個人の自己実現やキャリアの発展に影響を及ぼす可能性があること、など多くの問題点を抱えています。

私たち自身が、家族やパートナーとコミュニケーションを重ね、家事を分担したりサポートすることで、その重要性や価値、負担の度合いを理解することがとても大切です。

社会においては、ジェンダー平等教育の促進やセミナーやワークショップによる意識啓発、育児休暇や介護休暇の制度整備、柔軟な労働時間制度の導入、など様々な支援策が求められています。それらを通して、男女間での無償労働の公平な分担や固定的性別役割分業の見直しに繋げていかなければなりません。



小平市の西部にある小平市立小平第十三小学校には、小平市内唯一の芝生の校庭があります。校長先生のお話では、児童は裸足で遊んだり、運動したりするそうです。撮影隊も「ふかふかした気持ちのいい芝生」の上をそっと歩きました。

表紙の写真は、かわいい動物ブロックをいくつか、芝生の上に配置して、体育館と校舎を遠くに見るように撮影されました。青い空、白い雲の芝生がとてもきれいな日でした。

このかわいい動物ブロックは、市内の「社会福祉法人桂会・あしたば作業所」で作られているものです。「あしたば作業所」は脳血管障害の後遺症を持つ人達の労働とリハビリの場所として開所されましたが、現在は障害種別を問わない、どのような障害の方でも受け入れ、木工製品の制作販売をして、通所者の就労支援と生活支援をしています。



表紙について
撮影：長塚 秀人

皆さんの声をお寄せください。 広報誌『ひらく』を読んでの感想やご意見など、以下のメールアドレスやQRコードなどからお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。

●市民協働・男女参画推進課へメール
kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp



ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館（11館）、図書館（11か所）、地域センター（19館）、大学（6か所）、福祉会館、市民総合体育館、児童館（3館）、市内保育園、幼稚園、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局（17か所）、市内各駅（7か所）、ふれあい下水道館

小川町	手作りクッキーの店 歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院、和食処 楠
小川西町	佐野商店、たましん小平支店、NMC ギャラリー、小川ホーム
小川東町	ギャラリー青らんぎ
上水本町	アトリエ・パンセ
学園西町	ビューティーサロン サンローズ、梁里館、美容室ヘアグラッシュ、本間歯科、ヘアサロン サンライズ、笹間住宅資材、学園接骨院、国際交流協会、しらか鍼灸治療院
学園東町	日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 Je、とりあん、お化粧のしのぎき、Kimamaya T&K、宮鍋園本店、レンタル BOX 学園坂
仲木町	小平消防署
鈴木町	egg Cafe
天神町	ビレッジグリーン
美園町	多摩済生病院、カフェラグラス、珈琲の香、POEM、永田珈琲、ルネこだいら、子育てサポートきらら、アンデスの家ポリビア
大沼町	ガスマジューリアム
花小金井	公立昭和病院、Cafe & Deli hug、Tacos Mercado、上原薬局 2丁目店

広報誌「ひらく」のバックナンバーはこちら→



編集後記

● 特集を受けて振り返ってみると、うちの名もなき家事はかなりの確率でパートナーに偏っていることに気づく。先日「たまにはコンロ周りの掃除してよ」と言われ、「タイミングがわかんないからやるべきときになったら指示して」家事に主体性のない人間のお手本のような返答をしてみました。反省。

● 今回の特集では家事に対しての意見が沢山聞けてとても興味深かったです。

この特集を機に、家庭で誰か一人に負担がかかることが減るといいなと思っています。

（並木）
（竹田）



東京で農業を仕事にする、ということ。

OKファーム 大原 賢士 (おおはら けんじ) さん

「東京で農業を始めたい」と考える、農家の出身ではない新規就農者が集う〈東京NEO-FARMERS (ネオファーマーズ)〉の生産者の一人です。大原さんは1993年(平成5年)生まれで東京都港区出身です。東京で農業を始めようと思った経緯や

ロコシ、冬場はブロッコリーや長ネギを中心に育てています。栽培品目は少なく抑え一品目の収穫量を上げることが効率的であることに気づきました。農作業は天候にも大きく左右されますが、夏の時期は午前3時から働くこともあります。冬の寒い時期は朝早いと畑の土が凍っているので作業は9時頃からという感じですが、収穫した野菜は農協の直売所や近隣スーパーに出荷している他、近隣の小学校給食に提供することもあります。



現在の様子を伺いました。

◇ ◇ ◇
祖父が宮城県登米市のコメ農家でした。子どものころ遊びに行っては農作業のお手伝いをしていました。そこが原点で「将来は農業をやってみよう」と考えるようになっていました。農業高校へ行き、短大でも農業を学びました。一旦は一般企業に就職するも「自分の生き方はこれではない」と感じ退職。その後は、収穫シーズンには長野県の農家でアルバイトをしたり、小平市の農家さんから野菜を仕入れてマルシェを開くなど農業との接点を持ちながらフリーターとして数年を過ごしました。東京で生まれ育ったので就農するなら東京しか考えられませんでした。

転機は2018年の、都市農地貸借円滑化法の施行により、農家の世帯員以外が新規就農しやすくなったことです。東京都で就農するための条件である2年間の瑞穂町での研修を終え、以前マルシェでお世話になった小平市の農家さんへご挨拶に訪れた際、話の流れで「良かったら、ここでやりませんか」と土地を借りることができました。

そして、2019年に小平市で就農し、現在は合わせて8反(約2,400坪)の農地を耕しています。夏場は枝豆やトウモ

ろのような今までにない猛暑で、タネを植えても土壌の高温が原因でタネが駄目になり発芽に至らない事態も起こるなど大変なこともあります。自分自身にとって農業は合っていると感じています。普通の会社員に比べ、子どもと接する時間のやりくりもできるし、試行錯誤しながらも自由に働けることが何よりです。

◇ ◇ ◇
小平市には跡を継ぐ形の若い世代の就農者は多くいるものの、大原さんのような外部からの就農者はまだ珍しいそうです。取材を通して、ワーク・ライフ・バランスの充実した暮らしが伝わってきました。

令和5年度 男女共同参画週間講演会

フェムテックから考える 男の当たり前、女の当たり前

令和5(2023)年6月17日(土) 小平市中央図書館視聴覚室

講師 高尾 美穂 さん 医学博士、産婦人科専門医



フェムテック (Femtech) とは女性の健康を支える商品やサービスのことで「Female」と「Technology」との造語です。生理用品の開発や苦痛・不調を和らげる技術を指します。高尾さんは婦人科診察や婦人科スポーツドクターとして活動する中で女性ホルモンの働き、更年期の捉え方などのカラダの話をより多くの方に常識として知ってもらいたいと考え講演活動を行っているそうです。講演は日々の不調や疑問の具体例を挙げながらユーモアも交え解説して下さり、〈男の当たり前、女の当たり前〉が良くわかる充実した内容でした。

ひらく

第53号
令和5(2023)年
10月発行

発行/小平市地域振興都市民協働・男女参画推進課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575
✉ kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp

企画・編集/小平市男女共同参画推進実行委員会

安食世津子 谷原 裕子 宮川 和之
笹尾かをる 中條 洋子
高橋 雅子 中村 幸世
竹田 雪美 並木 菜里

小平市男女共同参画センター「ひらく」

〒187-0031 小平市小川東町4-2-1
小平元気村おがわ東 2階

042-348-2112 (電話受付時間
午前9時30分～午後5時)

西武拝島線・西武多摩湖線 秋山駅南口より徒歩5分
※駐車場に限りがありますので、車の来館はご遠慮ください

- 開館時間 午前9時～午後10時
- 休館日 火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
- 利用対象者 どなたでも(利用登録団体は予約可)
- 問合せ先 地域振興都市民協働・男女参画推進課
042-346-9618

